

事業所名 ラシク川崎（放課後等デイサービス）

支援プログラム

作成日

令和7 年

3 月

15 日

法人（事業所）理念	自分らしく安心して過ごせる場所を提供します		
支援方針	たくさんのお友達と一緒にさまざまな「遊び」や「体験」を経験することを通して、心と体の成長を最大限のものとなるよう支援し社会的な集団生活に必要なマナーやコミュニケーション力の育成を図ります。発達に特性がある子どもたちの安心・安全な居場所として存在し、自分らしく過ごしながら行動面・学習面・コミュニケーション面などの側面から支援を行い、子どもたちの生活や社会経験がより豊かになるように支援します。子どもたちが楽しく参加出来る外出イベントも多数実施し、地域交流を積極的に行いながら社会との繋がりを育んでいきます。		
営業時間	14 時 0 分から 17 時 0 分まで	送迎実施の有無	あり なし
支 援 内 容			
本人支援	健康・生活	心と身体を自ら維持できる生活を作り出すことを支援していく。意思表示が困難なため、小さなサインから心身の異変に気づけるよう、きめ細かな観察を行なっていく。毎日の睡眠、食事、排泄などの基本的なリズムを親御さんから情報共有していただき、その子らしく日常が過ごせるよう基本的なリズムが身につけられるよう支援していく。 食事の摂取形態や量、嚥下状態、好き嫌いの食べ物を把握するだけでなく、成長過程で必要な食への関心や幸福度など、食を営む力を育てていく。楽しい食事ができるような工夫を取り入れる（咀嚼、嚥下、姿勢保持、自助具、声かけ、雰囲気作り）。 口腔ケアで虫歯予防や、肺炎などの感染リスクの予防を行なっていくだけでなく、食がおいしく感じられる工夫も行う。 排泄の状況やタイミング等の習慣を観察し、不快感を取り除くよう努め、皮膚トラブルをなくす。手や口周り、身の回りを清潔に保持していく。	
	運動・感覚	遊びや他者との触れ合いで、その子の持つ視覚、聴覚、触覚、臭覚、感覚はどのようなものかを知り、偏りがないかを把握していき心地よく過ごせる環境調整や支援を行なっていく。児の可動域が広がるようマッサージ、ヨガ、腹臥位、ボール遊び等を取り入れ、関節の拘縮予防や筋力維持と強化が図れるよう支援していく。	
	認知・行動	児の興味や関心を把握、また児のストレングスは何かを見極め、得意を伸ばすことで不得意も一緒に伸ばしていく支援を行なっていく。他者との共同生活を行なっていくことで社会性を育てていく。 障がいの特性に配慮し、時間や空間を本人にわかりやすくする（わかりやすく興味をそそる時計を設置、絵カードの使用） 食育では食事前の手の清拭や「いただきます」「ごちそうさま」などの声かけ実施、これから何をするのかを認識できるように支援していく。	
	言語コミュニケーション	障がいの特性に応じて、言葉がけと併用して絵カードや記号などを用いた方法や、学校で取り入れている簡単な手話などのコミュニケーションを用いて、児の理解や意思表示の伝達ができるよう支援していく。 特に、意思表示が困難なため、児の細かなサイン（意思表示）を観察し、エラーが起きないようにまっすぐ行動を増やし、相対的に困っている行動を減らしていける働きかけを行うよう支援していく。	
	人間関係社会性	職員・他の児童と触れ合うことで愛着行動を形成していけるよう支援していく。日々の集団での遊びやごっこ遊びなどを通じて、人や物事を模倣することで、ルールを守って遊ぶ社会性を養っていく。	
家族支援	・ご自宅への送迎の際、ラシクでの過ごし様子や日々の支援について報告共有を行います。また必要に応じてご自宅を訪問し子どもたちへの家庭での支援について助言・アドバイスをいたします。 ・ご要望に応じて延長支援が可能です。	移行支援	インクルージョン（地域社会への参加・包摂）推進の観点から、子どもや家族の意向等も踏まえつつ、移行等へ向けた支援を行います。
地域支援・地域連携	子どもに関わる地域や生活の場にある関係機関や障害福祉サービス事業所等と連携し、より包括的な支援が実現できるように推進します。	職員の質の向上	定期的なスキルアップ研修、虐待防止研修の実施を行います。 各拠点においては日々の支援の振り返り、ヒヤリハットの共有を実施します。
主な行事等	春：お花見、ひな祭り 夏：バーベキュー 秋：運動会、紅葉狩り、ハロウィン 冬：クリスマス、初詣、節分 通年：動物園、アスレチック、公園遊び、おやつ作り、工作、実験、室内ゲーム、映画鑑賞等		

事業所名 ラシク川崎（児童発達支援）

支援プログラム

作成日

令和7 年

3 月

15 日

法人（事業所）理念		自分らしく安心して過ごせる場所を提供します		
支援方針		たくさんのお友達と一緒にさまざまな「遊び」や「体験」を経験することを通して、心と体の成長を最大限のものとなるよう支援し社会的な集団生活に必要なマナーやコミュニケーション力の育成を図ります。発達に特性がある子どもたちの安心・安全な居場所として存在し、自分らしく過ごしながら行動面・学習面・コミュニケーション面などの側面から支援を行い、子どもたちの生活や社会経験がより豊かになるように支援します。子どもたちが楽しく参加出来る外出イベントも多数実施し、地域交流を積極的に行いながら社会との繋がりを育んでいきます。		
営業時間		11 時 0 分から 17 時 0 分まで	送迎実施の有無	あり なし
支 援 内 容				
本人支援	健康・生活	心と身体を自ら維持できる生活を作り出すことを支援していく。意思表示が困難なため、小さなサインから心身の異変に気づけるよう、きめ細かな観察を行なっていく。毎日の睡眠、食事、排泄などの基本的なリズムを親御さんから情報共有していただき、その子らしく日常が過ごせるよう基本的なリズムが身につけられるよう支援していく。 食事の摂取形態や量、嚥下状態、好き嫌いの食べ物を把握するだけでなく、成長過程に必要な食への関心や幸福度など、食を営む力を育てていく。楽しい食事ができるような工夫を取り入れる（咀嚼、嚥下、姿勢保持、自助具、声かけ、雰囲気作り）。 口腔ケアで虫歯予防や、肺炎などの感染リスクの予防を行なっていくだけでなく、食がおいしく感じられる工夫も行う。 排泄の状況やタイミング等の習慣を観察し、不快感を取り除くよう努め、皮膚トラブルをなくす。手や口周り、身の回りを清潔に保持していく。		
	運動・感覚	遊びや他者との触れ合いで、その子の持つ視覚、聴覚、触覚、臭覚、感覚はどのようなものかを知り、偏りがないかを把握していき心地よく過ごせる環境調整や支援を行なっていく。児の可動域が広がるようマッサージ、ヨガ、腹臥位、ボール遊び等を取り入れ、関節の拘縮予防や筋力維持と強化を図れるよう支援していく。		
	認知・行動	児の興味や関心を把握、また児のストレングスは何かを見極め、得意を伸ばすことで不得意も一緒に伸ばしていく支援を行なっていく。他者との共同生活を行なっていくことで社会性を育てていく。 障がいの特性に配慮し、時間や空間を本人にわかりやすくする（わかりやすく興味をそそる時計を設置、絵カードの使用） 食育では食事前の手の清拭や「いただきます」「ごちそうさま」などの声かけ実施、これから何をするのかを認識できるよう支援していく。		
	言語 コミュニケーション	障がいの特性に応じて、言葉がけと併用して絵カードや記号などを用いた方法や、学校で取り入れている簡単な手話などのコミュニケーションを用いて、児の理解や意思表示の伝達ができるよう支援していく。 特に、意思表示が困難なため、児の細かなサイン（意思表示）を観察し、エラーが起きないようにうまくいく行動を増やし、相対的に困っている行動を減らしていける働きかけを行うよう支援していく。		
	人間関係 社会性	職員・他の児童と触れ合うことで愛着行動を形成していけるよう支援していく。日々の集団での遊びやごっこ遊びなどを通じて、人や物事を模倣することで、ルールを守って遊ぶ社会性を養っていく。		
家族支援		・ご自宅への送迎の際、ラシクでの過ごし様子や日々の支援について報告共有を行います。また必要に応じてご自宅を訪問し子どもたちへの家庭での支援について助言・アドバイスをいたします。 ・ご要望に応じて延長支援が可能です。	移行支援	インクルージョン（地域社会への参加・包摂）推進の観点から、子どもや家族の意向等も踏まえつつ、移行等へ向けた支援を行います。
地域支援・地域連携		子どもに関わる地域や生活の場にある関係機関や障害福祉サービス事業所等と連携し、より包括的な支援が実現できるように推進します。	職員の質の向上	定期的なスキルアップ研修、虐待防止研修の実施を行います。 各拠点においては日々の支援の振り返り、ヒヤリハットの共有を実施します。
主な行事等		春：お花見、ひな祭り 夏：バーベキュー 秋：運動会、紅葉狩り、ハロウィン 冬：クリスマス、初詣、節分 通年：動物園、アスレチック、公園遊び、おやつ作り、工作、実験、室内ゲーム、映画鑑賞等		